

### S4Eニュースレターへようこそ

#### 当財団の後援者

閣下、名誉あるサム  
・モスティン女史  
AC



## 私たちの歩み..

ハンザ／アクセスの物語は30年以上前、アジアの人々に紹介するのに理想的だと考えた小型多目的帆船の開発から始まりました。

セーリングについて。当時私はシンガポールに住んでおり、なぜアジア人にオプティミストと呼ばれる不安定で転覆しやすい奇妙な長方形の箱でセーリングを教える必要があるのか理解できなかった。私の想像の中では、伝統的に泳げず、セーリングも経験のないアジアの人々には、はるかにふさわしい何かがあった。

しかし、このスポーツを支配するセーラーたちはこの革命に興味を示さず、むしろ西洋人以上に西洋的であろうと固執しているように見えた。そこで私はオーストラリアに戻った。タイミングは良かった。ちょうどセイラビリティが導入されたばかりで、安定性のためのバラストキールを備え、ジョイスティックで操舵し、座ったまま操船できる私のボートは、障害を持つ人々にとって理想的だったのだ。

こうして共生型アクセスディングー、セイラビリティ、そして「誰もが楽しめるセーリング」の旅が始まった。「誰もが楽しめるセーリング」こそが当然の道筋だった。障害のある方々のために最善を尽くすならなおさらだ。大半の障害者は、障害者向けセーリングプログラムに隔離されることを望んでいない。彼らを対等な存在として受け入れるべきではないだろうか？

それから24年前、つまりこの取り組みが始まって約10年後の2001年、日本から驚くべきメールが届いた。石氏は、日本の高齢化社会におけるインフラと生活の向上に取り組む団体の創設者だった。彼は、私たちのボートが実際に使われている様子を見て「衝撃を受けた」と書き送ってきた。それは彼らがこれまでに見た中で最も優れたユニバーサルデザインの事例だったからだ。

ジャッキーと私はユニバーサルデザイン（UD）という概念を全く知らなかったため調査したところ、自分たちの活動に正式な名称があることを知り感激しました。私たちは知らず知らずのうちに、地域福祉と社会正義のプロジェクトに関わっていたのです。世界的なUDの先駆者として認められ、2002年の国連高齢者会議でボートを展示するよう招待されました。

ハンサの活動を通じて、私たちは一貫して「障害者セーリング」というレッテルを拒否してきました。それは私たちの出発点ではなく、明らかに現在の活動内容でもありません。むしろ私たちは、障害のある人々が障害を乗り越え、対等な立場で参加する機会を提供しています。したがって、私たちのボートが障害者向けに特別に設計されたとは言えませんが、障害のある人々を念頭に置いて設計されたと言えるでしょう。

ユニバーサルデザインは必ずしも専門分野ではなく、むしろ最初から全ての人のニーズを考慮し取り込む、規律に縛られないプロセスです。何かを改良して使いやすくすることではありません。完全に包括的なパッケージに到達するプロセスであり、だからこそ「包含」と「排除」という対立概念は無意味になるのです。

近頃誰もがインクルージョンを口にする。流行語となり、一時的な流行の合言葉となったが、主流に前向きな変化をもたらし、その流行が去った後も永続的な遺産を残すことを願う。

## 今月の特集

- 2025年のハイライト ● 2025年世界選手権・国際選手権 ● 初開催ビーチ・アビリティ・レガッタ
- 第1回世界インクルージョン選手権大会 ● 今後のイベント開催に関する参加意向表明募集
- 2026年以降の見通し

## これまでの歩み

しかし、進歩的な運動が逆風に遭ったり、単に勢いを失ったりすると、常に抵抗や反発が生じるため、その保証はない。

いわゆる進歩は他者にとっては退歩であり、常に不満を募らせる反対勢力を増大させ、彼らが権力を握った時には全てを破壊するだろうという事実を認識すべきだ。

ハンザが体現するものは全く異なる。それは二項対立の方程式ではなく、流行や時代の風潮に左右される「包含対排除」の物語ではないのだ。

挑戦的な考えとは、想像上の二元論を超えた世界の現れであり、地上に広がる天国の断片、実践される愛そのものである。

あるいはそれを脇に置き、この単純な事実を考えてみよう：最初から誰をも排除していなければ、誰かの包含について語る必要などないのだ。

クリス・ミッチェル - ハンザクラスデザイナー

## 現在の状況は？

現在、ハンザクラスのボートは43カ国で航行しています。アンティグア、オーストラリア、ベルギー、ブラジル、カナダ、チリ、中国、エストニア、フィンランド、フランス、グレートブリテン、ドイツ、ギリシャ、香港、ハンガリー、インドネシア、インド、アイルランド、イスラエル、イタリア、日本、韓国、サウジアラビア王国、ラトビア、リトアニア、マレーシア、マルタ、オランダ、ニュージーランド、オマーン、フィリピン、ポーランド、ポルトガル、サモア、シンガポール、南アフリカ、スペイン、スウェーデン、スイス、タヒチ、トルコ、アラブ首長国連邦、アメリカ合衆国。

## 今後の展望！

2026年には、当ウェブサイト ([www.hansaclass.org](http://www.hansaclass.org)) のカレンダーに既に50以上の主要レガッタが掲載される予定です。

欧州選手権は9月にバルセロナで開催され、2027年には世界選手権をフランスで開催予定です。

かつてパラリンピックで使用されたボート「SKUD18」が、2026年2月にオークランドで開催されるNZ国際マッチレースの主役となる。

新興国へ送る艇を募集しています—詳細は5ページをご覧ください。さらに、大量の新艇

を建造中です！

## 2028年地域選手権大会および2029年世界選手権大会の開催意向表明募集

国際ハンザクラス協会は、2028年地域選手権および2029年世界選手権の開催地募集を開始しました。

対象地域は欧州、アジア太平洋、アメリカ大陸。対象クラスはハンザ2.3、303シングル&ダブル、リパティ。SKUD18は十分な艇数が確保できる場合に限り追加可能です。

要件および詳細情報は、当ウェブサイト ([国際ハンザクラス協会](http://www.hansaclass.org)) の「レース運営およびイベント運営ガイドライン」内「[世界選手権および国際選手権](#)」セクションでご確認いただけます。

公式参加意向表明書はレース運営ガイドライン内に含まれています。

# この世のものとは思えない！

2025年ハンザクラス世界選手権および国際選手権は、2025年3月にシドニー・ニューポートのロイヤル・プリンス・アルフレッド・ヨットクラブ（RPA）にて開催されました。このレガッタは、RPAクラブのボランティア、会員、役員、ハンザクラスおよびハンザセーリングの代表者による数ヶ月にわたる準備の集大成となり、最終的に17カ国から182名のセーラーが集結しました。本大会はニューサウスウェールズ州選手権およびオーストラリア国内選手権を兼ねて開催されました。

ハンザ・セーリングのチームは海外からの競技者向けにチャーター艇を探すため国内東海岸をくまなく調査し、セイラビリティNSWプログラムもイベント向けに自艇を貸し出す形で協力した。練習レースとブリーフィングを経て、競技者が初めて水上に出た後、全員が開会式に集結。国旗行進と伝統的なアボリジニの歓迎・煙の儀式が行われ、3月24日にニューサウスウェールズ州総督マーガレット・ビーズリー閣下（AC KC）によりレガッタが正式に開幕した。

初日のレースは風向変化と強風により、選手団とレース委員会にとって極めて厳しい条件となった。本大会では2016年以来初めて、ハンサ2、3、303（シングル／ダブル）、リバティ、そして旧パラリンピック艇SKUD18を含むハンサ全艇種が世界選手権に揃って出場した。2016年リオパラリンピック金メダル獲得後に引退していたクイーンズランド州のダン・フィッツギボンがSKUD18クラスに復帰。初日レースを制し、衰えを見せない実力を示した。

2日目は303シングルクラスが競われ、75名の出場者数を記録。これは2012年にオーストラリアで開催された前回ハンサ世界選手権（出場者24名）の3倍に相当し、オーストラリア史上最大規模の303クラスとなった。このフリートには、3度のハンザ世界チャンピオンであるポーランドのピョトル・チホツキが参加。彼は再びトロフィーをコレクションに加えようと狙っていた。また、過去の優勝者であるオーストラリアのクリス・サイモンズも、自国開催の世界選手権でタイトルを奪還しようと意欲を燃やしていた。

同様に、303ダブルスではチホツキとサイモンズが過去2回のダブルスタイトルを分け合い、それぞれクルーのオルガ・ゴルナス＝グルジエン、マヌエラ・キンガーと再び組んで出場した。

ハンサ2.3クラスでは、海外選手5名とオーストラリア選手5名が選手権を争った。2023年世界選手権でこのクラス2位となった日本の藤本唯は、今回はさらに上を目指す構えだった。フリート唯一の女性選手として、彼女は証明すべきものがあった。リバティ級では、IHCA会長であるオランダのヴェラ・フォールバッハが栄冠を狙う。ヴェラの名は過去4回のハンザ世界選手権で優勝したりバティ・サーボアシストロフィーに刻まれている。2021年と2023年には総合優勝トロフィーも加え、今回も連覇を狙っていた。しかし、2024年ハンザアジア太平洋選手権で優勝したばかりの香港代表フー・ユエンワイも、ハンザタイトルをさらに加えようと意気込んでいた。

一週間を通じて、競技者は様々なコンディションに直面し、季節外れの微風によりレース委員会は苦戦を強いられた。最終的に全クラスで6レースが完了し、各クラスとも最悪のスコアを1つ除外することが可能となった。

ハンサ2.3クラスでは藤本結衣選手が圧倒的な強さで優勝。4レースを制し、残り2レースでは2位と3位に入賞した。この勝利により、彼女はハンサ2.3クラス初の女性世界チャンピオンとなった。

303シングルクラスでは、フランスのゴートイエ・プリルが圧倒的な勝利を収めた。ほぼ完璧なセーリングで4勝2位を獲得し、地元ポーランドのチホツキを4ポイント差で破った。クリス・サイモンズは数レースで不振に見舞われ、最終的に7位に終わった。

サイモンズはクルーのマヌエラ・キンガーと組んだ303ダブルスでは好成績を収め、チホツキとゴルナス＝グルジエン組を抑えて2位となった。しかし、大会前に初めて顔を合わせた英国／オーストラリア組のロリー・マッキナとジェス・ウォンには及ばなかった。303シングルス選手のマッキナがダブルスにも出場することを決めた際に急遽組まれたチームだった。ハンザクラスの大会でおなじみのマッキナにとって、これは初のワールドチャンピオン獲得となり、人気を博した優勝者となった。

フー・ユエン・ワイとオーストラリアのベテラン、チャールズ・ウェザリーはリバティ選手権で同点となり、フーがカウントバックで優勝、ヴェラ・フォアバックが3位となった。フォアバックはサーボトロフィーを再び持ち帰り、その座を守り抜いた。SKUD級ではオーストラリアのフィッツギボンとソマーズが圧巻のレース運びを見せ、全レースを制してタイトルを獲得した。

素晴らしい一週間と最高の開催地であったことは、後にロイヤル・プリンス・アルフレッドのジュリア・ホーンズビー副提督がNSW州およびオーストラリアセーリング協会主催の「年間最優秀ボランティア賞」を受賞し、RPAがNSW州部門で優勝、さらにオーストラリアセーリング協会主催の「年間最優秀ヨットクラブ賞」の最終候補に選出された事実が証明している。

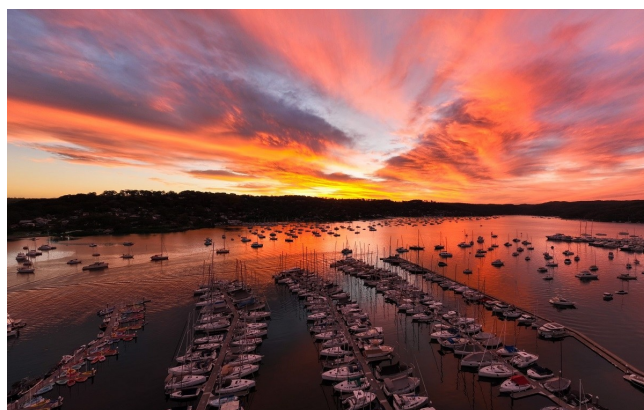
[こちらのリンクから](#)、[当社のチャンピオンたちの声をお聞きください](#)





全結果はこちら  
公式ウェブサイト

[WWW.HANSAWORLDS.ORG](http://WWW.HANSAWORLDS.ORG)



## 古いボートに新たな命を吹き込む



# WE ARE LOOKING FOR

**SECOND HAND OR UNUSED 2.3'S OR 303'S**

**Do you have boats that are unused? Help us give these boats a second life!**

**Why not donate them back to us for refurbishment and deployment into emerging nations?**

- Looking for full boats (minus sails)
- Boats will be refurbished at our expense to support inclusive sailing and grassroots programs worldwide
- Donors will receive acknowledgment on refurbished boats

**Your unused boats can open up the waters for others.**

**CONTACT  
US**

ハンサセーリングは、中古または未使用の2.3クラス艇および303クラス艇の再利用を呼びかけています。

新興国や草の根プログラムにおけるボート需要は膨大であるため、未使用艇に新たな命を吹き込むべく呼びかけを開始しました。

これまでに、スコットランドやオーストラリアといった遠方からもボート提供の申し出がありました。

これらの艇はハンサチームにより整備され、世界中の新たなセーリング団体へ送られます。

該当する艇をご存知の方は、ぜひご連絡ください

。

## 追悼

2025年、ハンザ・ファミリーは、オーストラリアにおけるアクセスクラス協会の創設期に重要な役割を果たした2名を失いました。

テリー・ピーク氏はアクセスクラス財団の元理事であり、国際アクセスクラス協会の初代会長を務めました。スペシャルオリンピックスのヘッドコーチとして深く関わり、当クラスの国際計量士を長年務めました。

その功績が認められ、2020年にはオーストラリアセーリング協会より生涯功労賞を受賞。2025年9月、80歳で逝去されました。



同様に、アラン・ジョーンズ OAM も初期の頃からピットウォーターでセイラビリティ・プログラムを立ち上げ、1996年に3隻のアクセス・ディンギーを導入しました。2003年にはギリシャに渡りセイラビリティ・ヘラス設立を支援し、2006年にはハイデラバードでセイラビリティ・インドアの立ち上げに携わりました。セイラビリティNSWの責任者として、彼は人々にアクセス/ハンザイベントへの参加を促し、オーストラリア国内外の大会でチーム・ピットウォーターを支援した。アランは2025年3月、自身のホームクラブで開催されるハンザクラス世界選手権に愛艇2.3で出場する予定だったが、健康状態が許さず、2025年末に94歳で逝去した。



## 2025年 新たな海域へ

## インド・マイソール

2025年10月、パラ・ワールドセーリング・アジアン・インクルージョン・シリーズがインドのマイソールで開催されました。13カ国から50人のセーラーが、ハンザ2.3および303のシングルとダブルスに参加しました。ハンザセーリングのクリス・ミッチェルも、このスポーツに比較的慣れないセーラーもいたため、ボートのサポートのために参加しました。また、PWS が提供した分類者チームによるパラ分類もセーラーたちに提供されました。2.3 および 303 のセーラーたちは全員、ランキングポイントを獲得しました。2.3 では初めての出来事です。このボートは、その汎用性とビーチからの進水に適した特性により、今年、人気急上昇しています。



レースは、クリシュナ・ラジャ・サガル (KRS) ダムの風光明媚な背水地域で4日間にわたって行われました。シドニーで開催された世界選手権で優勝したばかりの日本の藤本結衣選手が優勝しました。

2.3 シングル女子部門を制し、フランスのアラン・プルエが男子タイトルを獲得した。303女子シングルではインドのティミティ・ラシュミタが優勝、男子ではマレーシアのムスタファ・ビン・ジュネルがフランスや日本のベテラン選手を抑えてタイトルを手にした。



最大規模の部門は303ダブルスで、最終的に5つの別々のフリートに分かれて競われた。レース終了時、フランス人セーラーが1位となり、

第2回と第3回。イベントは大成功を収め、すでに今後の開催が計画されています。

## トルコ



10月に開催されたワールド・アビリティ・スポーツ初のビーチ・アビリティ・ゲームズに合わせ、輝くような新型ハンザ303の艦隊がトルコに到着した。

このレガッタでは、9カ国から18名の選手が8レースを競い合いました。ベテラン選手であるGBRのロリー・マッキナは、香港やイタリアの選手を抑え、ほぼ完璧なレース運びで優勝を勝ち取りました。現地のトルコ人選手たちは、新しい艇に素早く適応し、4位、5位、6位に入賞しました。

今後のイベントに向けた計画は既に進行中である。

## オマーン

2025年の最後の主要イベントは、またしても初開催となるワールドセーリング・インクルージョン選手権でした。鮮やかなカラーリングのハンサ303が再び活躍の場を提供し、33名の選手がシングルハンド部門に参加しました。

レースは毎日3ディビジョンずつ行われ、全9レースが実施された。風は主に弱く、303型艇を初めて見る初心者を含む参加者たちが、艇の特性を十分に体感できる環境となった。

大会は国際障害者デーと重なったため、選手と支援者は前日に休息日を与えられ、マスカットの観光を楽しむことができた。

トルコ大会に続き、GBRのロリー・マッキナが303クラス優勝を果たした。2026年大会はポルトガルのポルティマンで開催予定。



2025年開催予定のイベントの一部  
全リストは[こちら](#)



[2025年2月](#)

[NZ 303選手権](#) ニュージーランド・ウェリントン 2月13日・14日

[2025年3月](#)

[ポルトガル第1回ナショナル予選](#) ポルティマン 3月1日・2日

[2025年4月](#)

[ベルギー・セイラビリティ・カップ](#) ニューポート、4月19日～21日

[NZリバティ選手権](#) オークランド、4月24日～27日

[ポルトガル第2回ナショナル予選](#) アルケバ 4月26日・27日

[イタリア全国レガッタ](#) ブリンドジ、4月26日&27日

[2025年5月](#)

[ポルトガル地域選手権](#) ボヴォエンセ、5月2日～[4日フランス・ハンザ級選手権](#) カゾー、5

月1日～[4日第13回江ノ島選手権](#) 江ノ島、5月10日&11日

[ヘベ・ハイブン・オープンレガッタ](#) 香港、5月17日&18日

[2025年6月](#)

[東日本パラセーリング選手権](#) 東京、6月7日、8日

[英国ハンザ級選手権大会](#) ウェイマス、6月13日～15日

[2025年8月](#)

[ハーブ・マイヤー・レガッタ](#) サンフランシスコ、8月2日・3日

[オランダ・ハンザ級選手権](#) ブラースマー湖、8月29日～31日

[2025年9月](#)

[ポルトガル選手権](#) マリーナ・デ・ヴィラモウラ、9月18日～21日

[第14回ピースカップ](#) 広島、9月20日・21日

US [パラセーリング選手権](#) サンディエゴ、9月26日～28日

[IBSA ユースレガッタ](#) アンティープ、9月25日～27日

[2025年10月](#)

[スイス・ハンザ級選手権](#) ルガーノ湖、10月10日～12日

[ハンザ・ウェストカップ](#) ナント、10月11日・12日

[2025年11月](#)

[ナビキャップ・チャレンジ](#) モナコ、11月28日～30日

[インクルーシブクラスレガッタ](#) フレッシュウォーターベイ、西オーストラリア、11月29日～30日